

平成 29 年 度

平成 29 年 1 月 22 日 実施

入 学 試 験 問 題

(看護学科 3 年課程)

国 語 総 合

◎指示があるまで開いてはいけません

注 意

1 解答用紙には、受験番号・志望校名が印刷されているので、あなたの解答用紙かどうかを確認すること。

なお、氏名欄、志望校名欄には、氏名、志望校名を漢字で正確に記入すること。

2 この問題は、表紙を除いて 1 ページから 15 ページまでであるので確かめること。

3 試験の時間は、9 時 00 分から 9 時 45 分までの 45 分とする。

4 解答には、B 又は HB の鉛筆を使うこと。(シャープペンシルは不可)

5 問題は、5 肢択一式により出題されている。解答方法は、次のとおりとする。

(1) 5 肢択一式問題の正解は、各問題とも 1 つであるから、解答用紙の所定のマーク欄に、正解の番号を 1 つだけマークすること。2 つ以上マークされている場合は無得点とする。

(2) 解答用紙の〔記入上の注意〕をよく読んでマークすること。

例 〔問 1〕日本の首都は次のうちどれか。

① 京都 ② 福岡 ③ 東京 ④ 大阪 ⑤ 神戸

正解は「③ 東京」であるから解答用紙のその問題番号の次にならんでいる

マーク欄 ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を鉛筆で ● のように

マークして ① ② ● ④ ⑤ とすればよい。



(良い) のようにマークする。

(悪い) のようだと機械で読み取れないことがある。

既にマークした解答を消す場合は、プラスチック消しゴムでよく消すこと。

国語総合

□ 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

言葉の意味の違いは、それが日本語であり、日本語を母語とする日本人であれば、間違えるということはない。普段使っている日常語であれば、まず、間違えることがない。しかし、それを説明しようとする、出来なくなる。

「暗黙知」と言う。いつの間にか覚えて、いつの間にか出来るようになってしまっていることは、誰かに習ったわけでもなく、本を読んで理解したわけでもない。ただただ、出来るのである。

留学生君のように、学校で習った日本語は、説明を聞いて理解しているので、なまじな日本人よりもずっと説明が出来てしまう。ことばを通して習っているので、ことばで説明することが出来てしまう。これを「明示知」と言う。

教室などで説明されて、明示知でことばを覚えることを言語学習と言い、暗黙知でことばが身につくことを言語獲得と言う。

日本語は、留学生君にとっては明示知なので、動詞と形容詞で違う、などと、普通の日本人があまり意識しないようなことについて、すぐに気づく。その違いを説明することも出来てしまう。母国に帰って日本語教師になったときも、母国のことばで説明すればいいのだから、分かりやすく教えられるだろう。いい先生になれるであろう。日本語を習っていて自分が分からなくて困ったことは、自分が教える学習者たちにとっても難しい部分であるに違いない。経験者の強みである。

その辺の日本人が、自分は日本語が出来るから日本語が教えられるんだ、と思ったら大間違いである。日本語を教室で習った経験がなく、相手の言語も分からない。何をどのようにしたら習ってもらえるのか、まったく分からない。

何より、日本語母語話者は、自分のことばをうまく説明出来ない。出来るのだけれど、間違えないのだけれど、それを言語化する、明示化することが出来ない。

不思議なことである。自分の頭脳がすべて行っていることなのである。ただ、自分の中で働いているところを、自分が意識化出来ない。自分の頭の中に謎がある。探検すべきところ、調査すべきところは、自分の頭の中なのである。どこかへ行って調べるわけでもなく、何かの本を読んで学ぶわけでもない。常に自分とAの状態にある頭の中のこと、うまく分からない。はつきりしない。

あ 知というのは、そのようなものである。しかし、だからと言って、
い 知よりも
う 知が優れているというわけでもない。
え のうちに分かっていることは、そこに豊かな謎が控えているとも考えられる。また
お 化されていないものの中に、驚くべき発見が隠されているかもしれないのである。少なくとも、直感的に、正しいか間違っ

いるかの判断が出来る。

暗黙知で獲得された言語は、自分で直感的な判断が可能である。習ったことばは、正しいかどうかについて調べなければ分からない。文法書や辞書や語学教師に頼らなければならぬ。母語については、自分だけで判断出来る。しかも、明示知によって学習された言語は、学習した範囲のことしか分からない。どうしても限界がある。獲得された言語は、人によって違いはあるけれど、その言語能力で表現出来る限界まで行くことが出来る。いつの間にか出来てしまう。暗黙知がいいか、明示知がいいか、B。

(出典 金田一秀穂^{きんだいちひでほ} 『「汚い」日本語講座』より)

(注1) ——留学生君…著者は大学教授であり、日本語教師を目指している学生たちをゼミナールで指導している。その中には外国からの留学生も存在する。

〔問1〕 なまじな^①とあるが、その意味の説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 中途半端なさま。
- ② ありふれたさま。
- ③ 素朴なさま。
- ④ 生意気なさま。
- ⑤ 真面目なさま。

〔問2〕 動詞と形容詞^②とあるが、以下の文のうち、動詞と形容詞をどちらも含むものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 言葉の意味の違い
- ② ただただ、出来る
- ③ すぐに気づく
- ④ 分かりやすく教えられる
- ⑤ 経験者の強みだ

〔問3〕 経験者の強み^③とあるが、その「経験」の内容として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 日本語の動詞と形容詞の違いを学習したこと。
- ② 日本語を学習する中で壁に突き当たったこと。
- ③ 母国のことばに長けていること。
- ④ 暗黙知によって母国語を身につけたこと。
- ⑤ 日本語を「言語獲得」したこと。

〔問4〕 空欄 A に入る四字熟語として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 曖昧模糊^ニ
- ② 旗幟鮮明^シ
- ③ 是々非々
- ④ 徹頭徹尾
- ⑤ 不即不離

〔問5〕 空欄【あ】と【お】に当てはまる言語として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- 1 暗黙
- 2 明示

①	1	2	1	1	1	1	2
②	2	1	2	1	1	1	2
③	1	1	2	1	1	1	2
④	2	2	1	1	1	1	1
⑤	1	2	1	2	2	1	2

〔問6〕 空欄【B】に当てはまる文として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 前者に決まっている
- ② 後者に決まっている
- ③ どちらもどちらなのである
- ④ 足して二で割る方がいい
- ⑤ 留学生君に聞く他あるまい

〔問7〕 「暗黙知」・「明示知」に関する記述として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 日本人にとって日本語は、本を読んだり、学校で学んだりすることで身に付いた「暗黙知」である。
- ② 日本人が外国語を学習するにあたっては、「明示知」でことばを覚えることはしない。
- ③ 「暗黙知」には、言葉の使い方の正誤をはつきりと判断できないという短所がある。
- ④ 「明示知」による言語学習は、ことばの意味の違いを言語化する上での利点がある。
- ⑤ 日本語を「暗黙知」で獲得をした日本人は、決していい日本語教師にはなれない。

〔二〕 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

しばらく前のことになるが、友人のK君が食道がんの手術を受けたとの知らせを聞いたので、入院先の都内のS病院にK君を見舞った。

桜の花はほとんど散って、木々は急いで新緑に衣替えをしていた。よく立ち寄る花屋で小さな籠に入った鉢植えの忘れな草を見つけたので、それを持参した。忘れな草は、茎丈くまたけ十数センチほどの野の草花で、びっしりとハンモシ〔1〕、直径数ミリの濃いブルーの花を

あに無数に咲かせる。

K君が入っていたのは個室で、窓が広く、明るく感じられた。ベッドの足元のところに、ベッドを横にまたぐ恰好〔注1〕で、食卓に使えるキャスター付きのテーブルが置かれていた。

私はその上に、忘れな草の籠を置いた。

「これ、お見舞い」

そう言うと、彼は顔を

A

「可愛らしいね。何という花だっけ」

と尋ねた。

「“Forget-me-not”——忘れな草だよ」

「あ、そうか」

「英語で “Don't forget me”と言わないで、“Forget-me-not”という言い方で一語にしているところが面白いね。ドイツ語でも “Vergieß-mein-nicht”と英語と同じ言い方をする。大学一年の時に習ったドイツ語なんてすっかり忘れてしまったけれど、授業に使った小説の中に出てきたこの言葉だけは、なぜかドイツ語の先生の発音が耳に残っていて消えないんだ。どうもぼくはロマンティックな言葉に弱いのかも」

K君の手術は、かなり大がかりなものだったらしい。手術の内容や術後経過について聞いていると、若い看護婦〔注2〕が入ってきて、点滴バッグのチェックをした。異常がないことを確認し終わると、彼女の目がテーブルの上の小さな花籠にとまった。

「あら、可愛らしいですね。忘れな草ね」

花の名を言いあててくれたので、私は嬉しくなうれって、

「よくご存じですね。忘れな草という言葉は有名だけれど、それがどんな花か知っている人は意外に少ないんですよ」

「そうですね」と、彼女は同意した。

そんな会話をK君は

い

に聞いていた。

K君はそれから四十日ほどで退院したが、梅雨つゆが過ぎて夏がやって来た時、がんの再発が見つかり、再びS病院に入院した。

忙しさに追われて、私が見舞ったのは、八月も終わろうとしていた時期だった。七月に入院してずっと病棟で過ごしているK君の感覚は盛夏のまま止まっているに違いないと思
い、私は花屋で、初秋の風を感じさせるりんどう四本に吾亦紅われもこう二本を添えて、茎をやや短

く切った小さな花束をつくってもらった。病室にはあまり豪華な花束にしないほうがいいというのが、私の流儀だった。

「もう秋が近いんだね」

K君はすっかりやつれた顔で、つぶやくように言った。

あれこれ雑談をしていると、春に会ったあの看護婦が入ってきた。そして、花瓶の花を見るなり、

「あ、吾亦紅。わたし、大好きなんです。なつかしいわ」と、言った。

「吾亦紅がなつかしいなんて、あなた、地方出身なの？」

私が聞くと、彼女はうにうなずいて、

「ええ、青森なんです」

「そう、独りで上京して頑張ってるんだ。東京の人間は地方出身の看護婦さんたちに支えられてるんですよ。よろしくお願いします」

私は、彼女に親近感を覚えた。

K君は残念ながら、その年秋に旅立った。

半年ほど経って、私は用事があったてS病院を訪ねた。廊下でグウゼン②にもあの看護婦に出会った。私が声をかけて、K君と花のことを話すと、彼女は私のことを思い出してくれた。

「あなたは花が好きなんですな」

そう言うと、彼女はえにして、「ズカン③を見たりして、おに覚えてるんです」

「どうして？」

「患者さんはお見舞いの花を見て、心を慰めているでしょう。自分も花に愛情を持って話題にすれば、患者さんの辛い心に少しでも寄り添えるのではないかなって思うんです。あ、この間、花屋さんに忘れな草が出ていたので、思わず買ってしまいました」

「そうですか」

私④の胸に熱いものがこみ上げてきた。

(出典 柳田邦男やなぎた くにお『言葉の力、生きる力』より)

(注1) —— 恰好かっこう 格好 (かっこう) 【集英社国語辞典〔第3版〕】

(注2) —— 看護婦かんごふ 女性の看護師の旧称。【集英社国語辞典〔第3版〕】

〔問8〕

ハンモ^①、グウゼン^②、ズカン^③の傍線部に該当する漢字を含む熟語の組み合わせとして正しいものは、次のうちのどれか。

- ① a ハンザツな手続き。
c 映画カンシヨウ。
b ゼンジ回復に向かう。
- ② a 荷物のハンシユツ。
c カンレキのお祝い。
b ゼンゼン変わらない。
- ③ a 文学全集のハンブ。
c インカン証明。
b ミゼンに防ぐ。
- ④ a ハンボウ期に入る。
c 古美術をカンテイする。
b ジュンゼンたる事実。
- ⑤ a 商売ハンジョウ。
c 衆人カンシ。
b ガンゼンに広がる景色。

〔問9〕

空欄「あ」く「お」に当てはまる1く5の言葉の組み合わせとして最も適切なのは、次のうちのどれか。

- 1 一生懸命
- 2 けなげ
- 3 素直
- 4 楽しそう
- 5 恥ずかしそう

⑤	④	③	②	①	
1	2	2	1	2	あ
4	1	5	4	4	い
3	5	3	5	3	う
5	4	4	3	5	え
2	3	1	2	1	お

〔問 10〕 空欄 A に当てはまる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① くもらせて
- ② ほころばせて
- ③ しかめて
- ④ そむけて
- ⑤ きかせて

〔問 11〕 私^{〔B〕}は、彼女に親近感を覚えた^{〔E〕}とあるが、その理由として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 患者さん達のために、故郷を離れて一人で努力しているから。
- ② 点滴バツクのチェックなど、その仕事ぶりがてきぱきしているから。
- ③ 一度春に出会ったことがあり、久しぶりに再会できたから。
- ④ 「忘れな草」のみならず、「吾亦紅」のことも知っており、植物に詳しいから。
- ⑤ 地方出身で、自分と同郷であることが分かったから。

〔問 12〕 私^{〔C〕}の胸に熱いものがこみ上げてきたとあるが、その理由として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 友人K君のことを片時も忘れずに、仕事に従事していた看護婦への感謝。
- ② 季節は変わり、同じように草花は咲くが、そこにK君はいないことへの無常観。
- ③ 業務の傍ら、患者の辛い心に寄り添うべく、人知れず努力する看護婦への感激。
- ④ 東京の患者は地方出身の看護婦たちによって支えられている事実への矛盾感。
- ⑤ 看護婦の言動で植物が患者の心を癒すことを再確認できたことによる満足感。

〔問13〕

本文中で述べられている内容として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 新緑・梅雨・盛夏・初秋と季節の移ろいをテンポよく描いており、歳月の流れる早さと、「残された時間を大切に」というK君の筆者への思いを表している。
- ② せめて自分のことを忘れないで欲しいと願いつつ、最後に闘病を諦めたK君の思いや、忘れはしないという筆者の決意を「忘れな草」に仮託している。
- ③ 筆者は、K君の死をあえて「旅立った」と婉曲的に表現することにより、友人の死の受け入れを拒絶する気持ちをはっきりと表現している。
- ④ 友人の死という重いテーマであることから、病室を「窓が広く、明かるく感じられた」とのフィクション（虚構）を用いて、バランスを保っている。
- ⑤ K君の死は筆者にとって悲しい出来事であったが、半年後の看護婦との再会の描写により、悲しみだけにとどまらない余韻を残している。

〔三〕 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

人間が「教育」を思い立ったとき、人間は、その「教育」という未知の仕事について、あらかじめ何かのモデルをイメージに描いてタイシヨ^aすることを試みた。

そのモデルは、当然のことながら、自分たちがかねて親しんでいる日常的な仕事のイメージを用いて作られた。たとえば、「しつけ」という幼児教育上の用語についてみれば、それは、主婦が「しつけ糸」を用いて「しつけ」を行うイメージと重なっている。こうした日常的な仕事のイメージをモデルとして用いることによって、「教育」の仕事や手順が具体的にくふうされることになるのである。

では、人間が「教育」のためにモデルとして用いた最初の公共的なイメージはどのようなものであったか。

最初のイメージは、「粘土をこねて壺を作る」というイメージであった。〔A〕、「鉱石を溶かして鋤や鋏を作る」というイメージであったと言ってもよい。

いずれにせよ、人々が日常的に粘土をこねて壺を作ったり、鉱石を溶かして鋤や鋏を作ったりすることを中心に生活が成り立っていた後期農耕社会での生活を考えれば、「教育」についてのこうしたイメージの成立には、まことにもつともという以外にない根拠があった、と思われる。

プラトンは、『国家篇』において、「教育」を「染めつけ」の仕事になぞらえている。陶器に染めつけを行うばあい、その染めつけた色は、雨にも風にも耐えうるほどにしっかりと染めつけられなければならない。「教育」の仕事もそれと同じだ、と言うのである。幼い子どもの心と身体とに、染めつけるべき色をしっかりと染めつけ、将来の苦痛や悲しみや苦勞などの強力な洗剤に出会っても、けっして剥げおちることのないようにしておく。そのためには、子どもたちの心身がきわめてやわらかく、染めつけやすい幼時から、体育と音楽と教訓的な詩歌とを一つにして、これに染めつけを行う——それが「教育」である、と言うのである。

プラトンのこの主張は、比喻としては、「壺づくり」や「鋤鋏づくり」の比喻とは異なっている。だが、イメージとしては、完全に同種だといってよい。要するに、子どもがどうあるべきかの決定は、教師や両親のがわに委ねられている。子どもは、その決定にしたがって細工を加えられるべき素材、として描き出されているのである。

そこで、こうしたイメージを、私たちはここに、「あモデル」の教育イメージと呼ぶことができる。このばあい子どもは一般に「いモデル」で描かれている、といってよい。とにかく、こうしたイメージが、歴史の最も古い時代から相当の長期にわたって、「教育」に関して描かれつづけてきたのである。

中世はもちろん、近世に入っつてすら、このイメージは執拗につづいていった。モンテーニュは、「粘土は柔らかく、湿っている。早く、急いで、轆轤にかけて形につくらなければならぬ」(ペルシウス)という教訓が好きだったようである。ロックでさえ、子どもは「白

紙」であると言い、それに書き込むことの重要性を、「教育」について強調している。

だが、現代においてすら、この事情は変わってはいない。教師は好んで「陶冶性」^{〔注3〕}「可塑性」が子どもにあるかどうかを問題にする。これは明らかに、「あモデル」の教育観、
「いモデル」の子ども観の名残りなのである。

B、ヨーロッパの十八世紀の半ばにいたって、この「あモデル」の教育観、

「いモデル」の子ども観に対して、^{〔注2〕}決定的な批判が表面化した。それを代表したのがルソーの『エミール』の出現であった。

ルソーはここで、過去の教育観も子ども観もすべて誤りであった、と主張した。それは「教育」ではなくて、「お化け」を作っていたのであり、人間を「善く」しようと意図しながら、かえって「悪く」していたのだ、と主張した。そして、その過去の教育観、子ども観に代えて、まったく新しい教育観、子ども観を提案した。すなわち、もともと子ども自身が生まれながらに「善い」のであり、したがって、それが自然のままに成長すること（あるいは、そうさせること）こそ真正の「教育」の仕事だ、というのであった。

このルソーの批判と新しい提案は、当時のヨーロッパに多くの熱狂的なキョウメイ者^{〔注4〕}を生んだ。ペスタロッチーもフレーベルもその中のひとりであった。そして、こうした人々のケンシ^{〔注5〕}的な活動を通じて、「教育」の歴史はいわばまったく新しい時代を迎えるにいたったのである。

ところで、ルソーによるこの新しい提案は、古い教育観、子ども観に対して、イメージの上でのどういう特色をもっていたというべきであろうか。

私はそれを、「あモデル」の古い教育観に対しては「うモデル」の教育観、

「いモデル」の古い子ども観に対しては「えモデル」の子ども観、と呼ぶことがふさわしいと思う。

人間は、「もともとある土地の産物であるものを、むりに別の土地で育ててみたり、ある樹にほかの樹の実をならせたりする」^{〔注6〕}「C」という類の比喩が『エミール』の随所に用いられていることに注意してみるがよい。また、ペスタロッチーが、ミュリーゲンでの農業生活と同時に教育活動をはじめたことを考えてみるがよい。さらにまた、フレーベルが林務官の徒弟としての経歴から教育の道に入り、やがて葡萄園^{ぶどう}になぞらえて「幼稚園」を構想するにいたったことを考えてみるがよい。

この人々を熱狂的に「教育」に向かつて推し進めたイメージは、共通して「う」と「え」とであったのである。

もちろん、この人々の生きた社会が、いわゆる農本主義^{〔注6〕}が強調された時代にあったことが、こうしたイメージの背景となっていることも忘れてはならない。

「自然に還れ」というのは、必ずしもルソーの独自の主張というわけではない。それ以上に、社会の大きな動きでもあったのである。やがてゲーテが詩人として自然を讃え、ベートーヴェンが音楽家として田園を讃える時代でもあった。そして、政治においては、人間

の最も自然な生活を求めて、無政府主義（ゴドウィン）が夢みられる時代でもあったのである。

（出典 村井実『教育学入門（下）全二巻』より）

（注1）モンテーニュ…フランスの思想家。【集英社国語辞典〔第3版〕】

（注2）——轆轤…陶芸に用いる円盤状の回転台。【集英社国語辞典〔第3版〕】

（注3）——「陶冶性」…才能・素質などを育て上げることができること。【集英社国語辞典〔第3版〕】

「可塑性」…個体物質に弾性の限界を超えて外力を加えたときに生ずる変形が、外力を除いてもそのまま残るような性質。【集英社国語辞典〔第3版〕】

（注4）ペスタロッチー…スイスの教育家。【集英社国語辞典〔第3版〕】

（注5）フレーベル…ドイツの教育家。【集英社国語辞典〔第3版〕】

（注6）——農本主義…農業を国の産業の基本とする主義。【集英社国語辞典〔第3版〕】

〔問 17〕

空欄

あ

え

〔問 17〕 空欄 に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | あ | 粘土 | い | 手細工 | う | 植物 | え | 農耕 |
| ② | あ | 手細工 | い | 粘土 | う | 農耕 | え | 植物 |
| ③ | あ | 植物 | い | 農耕 | う | 粘土 | え | 手細工 |
| ④ | あ | 農耕 | い | 植物 | う | 手細工 | え | 粘土 |
| ⑤ | あ | 粘土 | い | 農耕 | う | 植物 | え | 手細工 |

〔問 18〕

〔問 18〕 決定的な批判⁽²⁾とあるが、その批判が向けられた対象として最も適切なものは、

次のうちのどれか。

- ① 子どもをほったらかしにすること
- ② 自然の中で子どもたちに教育を施すこと
- ③ 教育にモデルを求めること
- ④ 子どもがどうあるべきかを教師や親が決定すること
- ⑤ 教師や両親が教育にかかわらないこと

〔問 19〕

空欄

C

〔問 19〕 に当てはまる文として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 古くからの言い伝えの通り、鉄は熱いうちに打て
- ② 植物は栽培によって、人間は教育によって作られる
- ③ もともと子どもは無色であり、教育により色づけられる
- ④ 子どもの教育は芸術と同じで、親や教師は画家であり作家なのだ
- ⑤ 植物を動物が食べ、動物を人間が食べ、食物連鎖が完成する

〔問20〕

この文章の内容に合致するものは、次のうちのどれか。

- ① かつて、子どもは「悪い」ので「善く」するための教育が考えられたが、現代では「善い」子どもを、そのまま「善く」育てることが教育の責務である。
- ② ルソーの『エミール』の登場以降、かつての教育観や子ども観は完全に否定され、現代に至った。
- ③ 「教育」観は時代によりさまざまであるが、その時々々の生活様式や思想や社会の動きの影響を受けている。
- ④ プラトンの教育観は、それまでの伝統的な教育観とは完全に異なっており、ルソーの教育観と同じであるということができない。
- ⑤ 「無政府主義」とは、個人の絶対的な自由を主張する思想であり、教育を一切施すべきではないとするルソーらの思想と重なる。

余
白

